

学位論文要旨

氏名 北里美和



論文題目

「幼児を持つ母親のストレスに関する調査」
—母親に対する夫の期待に焦点を当てて—

指導教授承認印

岩瀬優美



幼児を持つ母親のストレスに関する調査

—母親に対する夫の期待に焦点をあてて—

【目的】

近年の母親は、核家族の影響により育児能力を獲得する機会がないまま母親となり、少子化傾向の中、育児体験の減少によって育児不安や育児ストレスが大きいと言われている（菅原1999）。さらに、近隣関係の希薄によるサポートの減少傾向から、サポートを受けることなく子育てをせざるを得なくなったことを報告している。このような環境の中、母親のストレスとして独身時代は、社会生活を通して努力の成果を測ることができ目標達成による満足感も得やすかったと思われるが、育児中は、仕事や自分のことが十分にできない状況で子育てが評価されないという報告がある（Mirza 2016）。このような母親の育児不安を軽減するためには、母親の自己価値を高めることが、有用ではないだろうかと考えた。人は他者からの期待に応じることによって誇りを感じ自己価値を高める（Atkinson, 1957）との先行研究より、母親は他者からの期待に応えることで自己価値を高めることにつながるのではないかと考え、本研究では、“母親が夫から期待されている内容”、“母親が夫からの期待に応じる程度と母親の精神的健康および育児に対する感情”との関係、“母親の夫からの期待に応じる程度とその理由”について検討した。

【方法】＜対象者＞H 幼稚園に通う園児の母親 280 名および S 幼稚園に通う園児の母親 180 名である。分析対象は、研究参加に同意し、質問紙を返信した 140 名（返信率 30%）（平均年齢±SD = 38.9 歳±4.2 歳）である。

＜手続き＞対象者に、以下の質問紙について記入を依頼した。

- ① 夫、友人、義理の両親、両親からの母親として期待に応じる、およびその期待に応じることの負担の程度とその回答の理由。家族、友人から、母親として期待されていることに関する自由記述
- ② 独自に作成した不安、楽しみ、負担、イライラ、落ち込みといった育児に対する感情
- ③ 精神健康度を測定する K6 テスト

④ 抑圧場面における対処方法を計測する Marlowe-Crowne's の社会的望ましさの尺度。

本研究は、夫からの母親への期待に焦点を当てたためにこの質問紙については、分析をしていない。

なお、本研究は北里大学医療衛生学部研究倫理委員会の承認を得ている。

【分析の概略】 母親への夫からの期待の自由記述について要約的内容分析をおこなった。次に、“夫からの期待に応じる程度”と“育児に対する感情得点と K6 得点”のピアソンの積率相関分析をおこなった。さらに母親が夫からの期待に応じる群、やや応じる群、あまり応じない群、応じない群の群に分けて、4つの群ごとにその理由について要約的内容分析をおこなった。

【結果】

対象者の背景

対象者 140 名の母親の平均年齢 (SD) は、38.9 (4.2) 歳であった。そのうち無職 80 名 (60%)、パート 18 名 (13%)、常勤 12 名 (9%) であった。母親の最終学歴は 大学卒 87 名 (62%)、専門学校 (11%)、大学院 (9%) であった。義理の両親との同居は、5 家族 (3%) 両親との同居は、12 家族 (8%)、それ以外は、核家族であった。

母親への夫からの期待の内容

夫の母親に対する期待の内容の質的分析結果は、頻度の多い順に「子どもへの取り組み方」「家族との関わり方」「夫との関わり方」の3つのカテゴリーであった。「子どもへの取り組み方」の内容は、子育てに専念してほしいという“育児志向”のびのびと育てるといった“教育”などであり、「家族との関わり方」の内容は、家事、食事など“主婦志向”や、愛情あふれる笑顔でといった“慈愛”などであった。「夫との関わり方」の内容は、“夫との良い関係”“夫のサポート”などであった。

“母親の夫からの期待に応じる程度”と“育児に対する感情および K6 得点”の関係

K6 得点においては、140 名の平均値が 3.41 点であり、カットオフポイント値 5 点以上の対象者は、全体の 30%であった。“母親の夫からの期待に応じる群”の母親は、K6 得点、育児に

に対する感情の不安、負担、落ち込みが最も低かった。“応じない群”の母親は、K6 得点、不安、イライラ感、負担、落ち込みが最も高かった。

“夫の母親への期待に応じる程度”と“5 つの育児に対する感情得点と K6 得点”のピアソンの積率相関分析を行った。“期待に応じる程度”と“育児に対する感情の不安、負担、落ち込み、および K6”との間に負の相関が認められた。(それぞれ $r=-0.291,-0.237,-0.343,-0.296, p < .01$)

母親の夫からの期待に応じる程度とその理由について

“母親の夫からの期待に応じる群”における理由の質的分析結果は、頻度の多い順に「夫との関係」「母親としての取り組み方」「子どもの成長」「家族との関係」の 4 つのカテゴリーであった。「夫との関係」においては、“夫と同じ価値観”、“協力的である”ことが、「母親としての育児の取り組み方」においては、“自分なりにやっている”と育児に肯定的であることが述べられた。「子どもの成長」では、“子どもの良好な成長”「家族との関係」においては“仲良く過ごしている”ことをあげている。

“母親の夫からの期待にやや応じる群”における理由の質的分析結果は、頻度の多い順に「母親としての育児の取り組み方」「夫との関係」「子どもの成長」「その他」の 4 つのカテゴリーであった。「母親としての育児の取り組み方」においては、“自分なりにやっている”と子育てを肯定的に述べている一方で“思うようにいかない”と子育てを否定的にとらえたカテゴリーから構成されていた。「夫との関係」においては、“夫と同じ価値感である”と述べる一方で“夫からの負担感がある”といった夫との関係性に否定的なカテゴリーから構成されていた。「子どもの成長」においては、“子どもの平均的な成長の姿を見て”と述べている。

“母親の夫からの期待にあまり応じない群”における理由の質的分析結果は、頻度の多い順に「母親としての育児の取り組み方」「夫との関係」の 3 つのカテゴリーであった。「母親としての育児の取り組み方」においては、“子育ては思うようにいかない”といった育児に対して否定的であることが、さらに「夫との関係」の内容も、“夫からの負担感”という否定的なものであった。

“応じない群”における理由の質的分析結果は、「母親としての育児の取り組み」「夫との関係」といった2つのカテゴリーであった。「母親としての育児の取り組み方」においては、“感情のコントロール困難”といった育児に対して否定的なものであり、さらに「夫との関係」においても、“基本的な関係ができていない”という否定的なものであった。

【考察】

母親が夫から期待される内容

母親が夫から期待される内容は、“子どもへの取り組み方”“家族との関わり方”“夫との関わり方”の3つのカテゴリーであり、内容を具体的にみると、子どもの世話、主婦志向、夫との良好な関係、夫へのサポートというものであった。これらは、夫は外で仕事、妻は家庭といった伝統的な女性性を感じるものである。本研究において、母親が夫から期待される内容は、依然として伝統的な女性性に関するものであることがわかった。

“母親が夫からの期待に応じる程度”と“育児に対する感情及び精神的健康”との関係

本研究では、夫の期待に応じる母親ほど、精神健康度が高く、育児に対する不安、負担、落ち込みを感じていない傾向が認められた。心身の疲労や育児不安は、母親が親としてのアイデンティティを肯定的に捉えることを抑制し、親としての自信のなさや役割からの逃避を促進させる (Robertson 2017) との報告を支持し、本研究においても、夫からの期待に応じる母親は、その期待を肯定的に受容し、母親としてのアイデンティティを構築し、その結果、健康精神度が高く、育児に対する不安、負担、落ち込みは低くなると考えられる。

母親が夫からの期待に応じる理由についてみると、“応じる群”“やや応じる群”の母親は、育児を“自分なりにやっている”と肯定的に受け止め、“良好な子どもの成長を見て期待に応えている”と述べており、夫からの期待に応じることに満足感や幸福感を感じ、その結果、健康的な精神度が高くなると推察される。さらに、その理由として夫との関係が良好であることを報告している。

夫と同じ価値観で育児をしているという意識があれば、育児負担感は軽減され、健康状態は高くなる傾向があると思われる。

一方、“あまり応じない群”と“応じない群”の母親は、夫からの期待に応じない理由として、“感情のコントロールが困難である”と述べており、育児に対して否定的な感情を持ち、育児に対する不安、負担、落ち込みを感じる傾向にあると考えられる。また、夫との関係を“負担である”と感じていた。育児役割分担の考え方に関して夫婦間の意識の違いが母親の不安度に影響を与え、家庭内のコミュニケーションの充実が、夫婦相互の育児不安を軽減することにつながることを鑑みると、夫との信頼関係やコミュニケーションが円滑でない“あまり応じない群”“応じない群”の母親は、育児不安が高まりやすいと考えられる。

以上より本研究では、夫からの期待に応じる程度の高い母親ほど、夫と良好な関係を結び、育児を肯定的に受け止め、精神的健康度が高く、育児に対する不安、負担、落ち込みを感じていない傾向が示唆された。

【研究の限界】

本研究は横断的研究のため、夫からの期待に応じる程度と精神的健康度との因果関係については明らかではない。また、対象者が都内にある私立の幼稚園児の母親であったため、未就学児の母親としての一般的な傾向をみることはできないかもしれない。さらには、対象者も少なく、十分な統計的解析を行うことができなかった。今後は、対象者を保育園など違った環境で育児をしている母親にも範囲を広げ、さらに、母親に対する夫からの期待だけではなく、友人、義理の両親、両親といった周囲からの期待に対しても検討していきたい。